

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年11月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0171000607		
法人名	株式会社 健康会		
事業所名	グループホーム えべつ		
所在地	〒067-0013 北海道江別市3条1丁目5番 (電話) 011-391-5171		
評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成21年11月6日	評価確定日	平成21年12月8日

【情報提供票より】(平成21年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成18年 3月 31日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤13人、非常勤3人、常勤換算10.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	2 階建ての	全 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	43,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 1日550円 暖房費 1日320円 (10月~4月)	
敷 金	有 (円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	450 円	昼食	300 円
	夕食	550 円	おやつ	50 円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要 (9 月 10日 現在)

利用者人数	18名	男性	2名	女性	16名
要介護1	4名	要介護2	6名		
要介護3	4名	要介護4	2名		
要介護5	2名	要支援2	0名		
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおあさクリニック, 野幌病院, おおあさメディカルビル歯科
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

「原始林と石狩川に抱かれた触れ合いの街」を掲げる江別市で川を利用した運送の要衝で、最初に開かれた地区で倉庫群が密集し、その名残を一部留めた地域で今は静かな住宅街になっている。運営者が医療と介護を連携させたものにしたの思いから、介護事業所を展開して6番目にできたホームである。管理者は看護師であり、日常的な健康管理に万全を尽くしたケアを行っている。家族とは密に連絡を取り、介護計画作成には意見・要望を聴き、丁寧に説明し同意を得ている。広い敷地の前庭には菜園があり、利用者は野菜を作り、近所におすそ分けしている。また天気の良い日には、茶話会を庭で楽しんでいる。理念に「人との繋がりを大切に」を掲げ、地域の行事には積極的に参加し、多種のボランティアの協力を得ている。ヘルパー2級の実習生を受け入れ、「子ども110番の家」に登録し、事業所のイベントには、町内に案内をし参加を呼び掛け、地域との交流を図っている。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の課題である「重度化や終末に向けた方針の共有」「栄養摂取や水分確保の支援」は改善され、「同業者との交流を通じた向上」「災害対策」は改善に向けて取り組みをしているが、まだ改善までには至っていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は職員が分担し、自らのケアサービスについて、振り返り見直しを行い、管理者が全体を取りまとめて作成している。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、2ヶ月に1回定期的に開催されている。ホームでの利用者の生活の様子や、討議内容の大まかな年間計画を立て討議している。今回は、隣地有料老人ホームの代表の参加があり、災害時の避難誘導について、課題、質問、要望などの率直な意見の交換が行われた。災害時に備え地域との協力体制をいかに築いて行くかが今後の課題である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>「意見箱」が設置され、内部、外部の苦情窓口を重要事項説明書に明示し説明を行っている。家族には、来訪時や電話にて細やかな報告をし、気軽に意見・要望・不満・心配ごとを言ってもらえる雰囲気作りに努め、提言事項は職員間で共有し、介護計画や運営に反映している。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に加入し、定期総会に出席、町内会行事に参加し、散歩時には、近隣の方との挨拶に心がけ、行事には参加を得ている。また、クリスマスには、近隣の幼稚園児の来訪があり、一緒に楽しんでいる。今年度小学生との交流が予定されていたが新型インフルエンザのため中止となった。近隣の住民と更に交流を深め、事業所に気軽に立ち寄ってもらえるような関係作りに努めている。</p>
重点項目④	

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時に職員と利用者も加わり、作成した理念3項目に、地域の人との楽しみを共有したい思いから「人との繋がりを大切に楽しみが持てる生活を提供します」を全職員で考え、明記している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホールの見えるところに掲げ、朝のミーティング時や、申し送り時に唱和し、職員は個々には理解しているが全職員が理念を共有したケアの実践になっていない。	○	管理者と全職員は理念を共有し、日々のサービス提供の場において深く掘り下げ、具体的ケアについて全職員で話し合い、意識づけを行い、統一した支援をされることを期待したい。
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の定期総会に出席し、夏の行事のジンギスカン会に参加し、事業所の催し物（焼き肉パーティ・よさこい踊り）には地域の人に案内し、多数の参加を得ている。菜園で収穫した作物を隣の消防署におすそわけし交流を深めている。非難場所としての「子供110番の家」に登録している。双方向性の交流に努めている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表を職員に配り、職員はそれぞれ分担し、自らのケアについて振り返り見直しをしながら実施し、管理者が取りまとめた。評価のねらいや意義については理解し、具体的な改善に向けて取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回定期的に開催している。メンバーは、利用者・毎回異なった家族代表・包括支援センターの職員・地域住民の代表・管理者・職員で討議内容は大まかな年間計画を立てている。意見、要望、質問などは、サービスの向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センターの職員や、福祉課の職員の来訪があり、ホームの実情を伝え、質の向上に向けて話し合いを行っている。また、毎月利用者の入居状況を知らせている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回定期的に広報を発行し、行事報告や、利用者の暮らしぶりなどを、スナップ写真におさめ伝えている。身体状況変化時には、密なる連絡をとり、金銭管理報告は家族の来訪時に確認をもらい、来訪のない家族には領収書添付にて送付し、確認をもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は玄関ホールに設置しているが投稿がないことから、設置場所やより使いやすい工夫を考えている。重要事項説明書に第三者苦情窓口を明記し、契約時には必ず説明している。管理者・職員は、家族の来訪時に必ず声をかけ、意見・要望などが言える雰囲気作りに努めている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動等による利用者へのダメージを最小限にするため、利用者の不安感を重視しながら職員の人選に配慮し、常日頃から2ユニット間でのケア体制に取り組んでいる。利用者は、馴染みの顔が増えたと喜んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ユニット間で職員主体の委員会を設け、各委員会では積極的に勉強会を開き、内部研修に繋がっている。又、運営者は外部研修を積極的に勧め研修後は情報を文章化し、全職員で共有している。管理者は新職員研修を1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月とし、今後のトレーニング課題としている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市内のグループホームの会合に出席し、情報交換や交流を図っているが、職員と他同業者との取り組みはされていない。今後社内7ヶ所のグループホームの職員研修の予定がある。	○	管理者会議でのネットワークを活用し、職員レベルでの見学や交換研修、勉強会の機会をもち、サービスの質の向上に活かせる取り組みを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、本人と家族に見学してもらい、意見、要望などを聞き、茶話会を設け、利用者、職員などと交流することで徐々に馴染めるように配慮している。雰囲気や相性があることを考慮し、1日体験入居も検討している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として敬う気持ちを忘れずに、生活暦を振り返り、出来る事、得意なことを見い出し、最近では江別の歴史を共に学び、支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者・家族等から思いや希望を聴き、更に過去の生活記録・情報などを参考によりよい暮らしが出来るように努めている。把握が困難な場合は、行動や、しぐさ、表情など多面的に付渡し、希望に添えるよう努力している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	身体状態、毎日の生活の様子・記録など本人・家族から思いや意見を聞き、担当者でカンファレンスを行い、1人ひとりに合った個別の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の設定期間は、3ヶ月としているが、利用者の生活の様子などから、身体状況に変化があった場合には、速やかにユニット間でカンファレンスを開き、見直しをし、現状に即したケアサービスを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整っており、利用者の日常的な健康面での充実に努めている。医療機関への送迎は家族が行っているが、その時の状況に応じて職員が支援をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護師の資格を持つ管理者による日常的な健康管理がされている。必要時にはかかりつけ医と密なる連携をとり、希望者には協力医療機関による月2回の訪問診療を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や看とりに関する対応の指針を作成し、本人・家族に説明をして、同意を得ている。看とりを希望する利用者がいるので関係者間でより詳細に検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人らしいあり方や、尊厳が保たれるよう言葉かけや、対応に配慮したケアが行われている。個人記録の保持も徹底し、法令を遵守した取り扱いを行っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりその日を、どのように過ごしたいかの希望は把握しているが、職員のスケジュールや、業務が優先され、その人のペースに合わせたケアや希望に十分に答えられていない。	○	利用者が主人公となり、その日をその人のペースで暮らせるよう、その時その時の、本人の気持ちを尊重し、業務やスケジュールが優先されることがなく、個別性のあるケアの工夫をされることを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	管理栄養士の献立を基にしながら、菜園で収穫した野菜の調理を利用者と一緒に行い、料理の盛り付け、食後の後片づけを一緒にし、食事を楽しんでいる。嗜好品の希望をとり、誕生日には家族を招いている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は、1時半から3時半までの時間帯で毎日沸かし、週に2回～3回の入浴の支援をしている。同性介助、時間帯、入浴頻度など希望を聞いて支援している。拒む人には声かけや、タイミングに工夫し、入浴が楽しいものとなるよう支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	菜園の手入れ、洗濯物たたみ、茶碗洗いなど利用者の生活歴や状況、好みに合った役割を見守りをしながら支援している。ボランティアの来訪があり、レク体操、傾聴、折り紙など、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候、利用者の希望により買い物や散歩に出かけ、お祭りやイベントなどに出かけたりしている。事業所の行事の花見やいちご狩り、焼き肉パーティには、家族に参加を呼び掛け、楽しく過ごせるよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に鍵をかけていない。夜間の時間帯(21:30～翌朝6:00)は防犯のため施錠している。ユニットへの出入り口にはセンサーがついているが、見守りを大切にするケアをしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、春と秋に消防署と、昼・夜を想定した火災避難誘導訓練をしている。近隣住民の協力は、高齢化などにより困難であり、運営推進会議で検討しているが、災害時に備えた非常用食料、備品等の準備はしていない。	○	災害時に備えた食料品や飲料水、簡易トイレ、毛布などを確保し、色々な災害を想定した継続的な避難訓練と、職員だけの避難誘導には限界があることを踏まえて、運営推進会議で引き続きさらなる検討をし、協力が得られる体制作りを期待したい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本部の管理栄養士の献立を基に、栄養委員会の担当者は、外部研修に参加し、勉強会を開き、糖尿病食を含め、栄養バランス・味付け・満足感に工夫を凝らし、利用者の状態に応じた摂取量、水分確保の支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの片隅には畳敷きのスペースが有り、窓からは外の景色が眺められ、リラックスできる空間になっている。壁には、利用者と職員の手作りのカレンダー、利用者の絵や、折り紙の作品を飾り、家庭的な雰囲気作りの工夫が見られる。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、生活暦や好みなどからベッドと床に布団を敷き寝ている人、整理整頓を几帳面にされている人、似顔絵を壁一面に貼り楽しんでいる人など本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。各居室には温湿度計が置かれ、健康管理に配慮している。		

※  は、重点項目。